

(別添2)

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所  
事業所名 佐久市高瀬保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による  
事業所名(施設名) 佐久市高瀬保育園

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	○佐久市の保育理念に基づいた上で本園を取り巻く状況や子どもの姿を踏まえた保育課程が作成されています。 ○保育課程や園の理念について職種に関わらず、全職員が理解し共通の目標に向かって定期的な話し合いや園内研修の機会が設定されています。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>□ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	○未満児室には、安心してゆっくりくつろげる専用のスペースが設置されています。 ○園庭は広く、遊具の安全に関する基準に適合した遊具も多く設置されました。 ○施設的设计上やむを得ない状況はありますが、未満児の使用済みオムツの管理の仕方等更なる工夫が期待されません。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>		<p>○個々の発達過程や家庭環境、生活のリズムを職員全員が把握し、担任を中心に加配保育士や他のクラスの職員もチームとして子どもたちに関わっています。</p> <p>○自分でやってみようという気持ちを持ち安心して活動したり達成感が味わえるよう保育に工夫がみられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のスタートから配慮をして時間に余裕を持てるようにしています。</li> <li>・保育士同士で連携し、時間がかかっても待つ、という体制ができています。</li> </ul>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っています	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>		<p>○生活習慣を身につけるための指導計画が作成され、保育士がその大切さを理解しながら一人ひとりのペースに合わせて援助をしています。時には待ってあげたり、時には必要な援助をして心地よさを共感したりして自分でやろうという気持ちを育てていました。</p> <p>○集団の力も活用し友だちのするところを真似したりする中で自然に基本的な生活習慣が身につく取り組みも確認できました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	■ 24	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	<p>○身体を動かして遊び、丈夫な体と元気な心を育てたいと願って毎朝ランニングや体操、集団ゲームを楽しみ積極的に体を動かして遊んでいます。</p> <p>○信州やまほいくの園に認定され自然環境を生かした散歩や地域との関わりを積極的に行っています。</p> <p>・バードケーキ（鳥の餌）を作って小鳥を呼ぶ活動、10種類以上の野菜作りや調理体験をしています。</p> <p>・自然物を使った遊び、サッカー教室、散歩時の訪問カード配布など地域の方との交流を積極的に保育に取り入れています。</p> <p>○”話し合う”姿を大切に見守り、子どもの思いに寄り添えるようにしています。年長児クラスでは担任が折に触れ子どもたちに相談しながら次の行動を決めていく様子が見られ子どもの自発性を尊重する場面が多くみられました。</p>
					■ 25	子どもが自発性を発揮できるよう援助している。	
					■ 26	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。	
					■ 27	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。	
					■ 28	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。	
					■ 29	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。	
					■ 30	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。	
					■ 31	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。	
					■ 32	地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	
					■ 33	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容及方法に配慮している。	b)	■ 34	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	<p>○子どもの発達をふまえた手作り玩具が用意され、子どもへの対応もゆっくりと優しく話しかけるなど温かく受容的な関わりや援助がみられました。</p> <p>○笑顔で接し子どもの訴えに対し、応答的であるよう心がけています。</p> <p>○子どもの動きや表情等から子どもの思いに寄り添い、心地よい環境で過ごせるよう配慮をしていることが担任の聞き取りからも確認できました。</p> <p>○特定の保育士との愛着関係が育つよう、次年度に向けて担当制保育の検討がされているようです。人的な課題もあると思いますが0歳児の更なる情緒の安定を目指す園の取組に期待がもてます。</p>
					□ 35	0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。	
					■ 36	子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。	
					■ 37	0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。	
					■ 38	0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。	
					■ 39	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよ		■ 41	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	○担任は自我の芽生えやイヤイヤ期の子どもを順調な発達の過程と理解し温かく受け止められるよう心がけ「待つ」保育を大切にしていました。 ○未就学児交流会や地域交流会等、さまざまな年齢の方との交流会が計画されていることが確認できました。 ○保護者との連携（連絡ノートや面談など）を心がけ一人ひとりの状況に応じた対応がされています。
					■ 42	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。	
					■ 43	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。	
					■ 44	保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。	
					■ 45	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。	
					■ 46	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 47	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	○鬼ごっこやゲームなど簡単なルールのある遊びを意図的に取り入れながら集団の中で自己発揮をしたり協力して一つのことに取り組む経験ができるよう保育士の働きがけがみられます。 ○不用品を用いた制作などを通して、工夫して自主的な考えを培う活動を意図的に取り入れています。 ○散歩に出かけるときに保育士同士で相談して時には散歩コースの途中でばったり出会う、などの仕掛けをして子どもたちの楽しみやワクワク感もてる保育を工夫しています。 ○活動風景の写真が園庭の入り口に掲示されています。また子どもの様子を園だよりやクラスだより、ホームページ等で発信しています。
					■ 48	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
					■ 49	5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
					■ 50	子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	■	52	障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	<p>○一人ひとりの発達や個人差を把握し見通しをもって保育をするために、クラスの指導計画と関連付けながら個別指導計画が作成されています。個別計画に基づき加配保育士と連携しながら、協力し支援に当たっています。</p> <p>○保護者との連携を大切にいつでも相談ができる環境が整えられています。</p> <p>○職員は積極的に研修に参加し研鑽に努めています。、研修内容は職員会等で伝達して共有を図っています。</p> <p>○園全体で情報の共有をすることできめ細かい支援につなげています。</p>
				■	53	計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	
				■	54	子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	
				■	55	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	
				■	56	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	
				■	57	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	
				■	58	保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	□	59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	<p>○人数に応じた保育の場を設け、子どもがゆったりと過ごせるよう工夫しています。</p> <p>○合同保育では、年長児が年少児と交流することで、小さな子に対する気配り等も養われています。</p> <p>○メモ等を活用し保育士間での連絡を密にしています。必要に応じて担任が残り保護者と直接話をするなど、保護者が安心して長時間保育が利用できるようにしています。</p> <p>○早朝から夕刻まで長時間にわたって保育園で過ごすことを配慮し、1日を見通したきめ細かい活動計画が作成されることで更に具体的な支援が期待されます。</p>
				■	60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	
				■	61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	
				■	62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。	
				■	63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	
				■	64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。	
				■	65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わり配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもが小学校への期待が持てるよう交流の機会が多く持たれています。</li> <li>○小学校での行事に招待されたり必要に応じて体験入学をしています。</li> <li>○小学校の先生が来園し活動の様子を見学したり、就学児童についての情報共有が行われています。</li> <li>○アプローチカリキュラムは作成されていませんが年間指導計画の中で卒園に向けて身につけたい態度や習慣が明記されています。</li> </ul>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>□ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「危機管理マニュアル」が各クラスに掲示されていることが確認できました。</li> <li>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</li> <li>○日常生活を丁寧に観察したり保護者との連携を密にすることで健康状態の把握ができるようにしています。</li> <li>○発熱等の子どもが安心して保護者のお迎えを待てるよう、事務室との連携もよく適切に対応しています。</li> <li>○保護者に対して、SIDSへの研修参加や園での取り組みについてより丁寧な情報の提供が期待されます。</li> </ul>	
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種検診が計画に基づき実施されています。</li> <li>○佐久市全体の取組として年長児のフッ素による虫歯予防に努めています。</li> </ul>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>		<p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底されています。</p> <p>○アレルギーについては、入園前に園長、担任予定者、給食担当者、保護者でその状態についての話し合いをし情報を共有しています。</p> <p>○食事提供の方法を工夫し、区別できるようにしています。</p> <p>○しっかりとした対応や環境整備ができていますので、日頃の取組を多くの機会をとらえて保護者に知らせることが期待されます。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>		<p>○給食室の近くに「げんキッズ」の装飾があり、親しみやすく見やすい絵柄で子どもたちに栄養や食に関心が持てるような環境が作られていました。</p> <p>○栄養士による食育指導や食育だよりが発行され、食事の大切さを分かりやすく紹介しています。</p> <p>○提供した食事のサンプルを展示し、その日の献立や量を保護者に知らせています。</p> <p>○残さないで食べられるよう、それぞれの園児に応じた量の盛り付けにしています。また、お代わりは希望でできるようにになっています。</p> <p>○楽しい雰囲気の中、食欲旺盛に食べる姿が見られました。</p> <p>○食育計画が作成され、調理員も含めた全職員で取り組んでいました。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼	点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>□ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>□ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>		<p>○食材はできる限り地元産を使用しています。園で育てた野菜も提供するようにしています。</p> <p>○蒟蒻づくりや節分などの行事を通して地域の文化や行事食に関心がもてるようにしています。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p> <p>○調理員等はなるべく多くの機会をとらえ、食事の様子を確認したり園児に直接聞き取りをして献立や調理に反映させることが望まれます。</p>
2 子育て 支援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>			<p>○各クラスだよりが発刊され、保育園での取り組みを細かく紹介しています。</p> <p>○年間計画で、保育参観や保護者会などが計画されています。</p> <p>○親子のコミュニケーションを深めるため、園での活動を子どもが親に話せるような支援が確認できました。</p>



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○園長は折に触れて保護者への声かけを行い、保護者の思いや困り感に寄り添うとともに子どもの成長を喜び合うなどしていました。そのことで保護者は相談がしやすく園への信頼を高めることにつながっています。保護者アンケートのコメント等からも裏付けられています。</p> <p>○保護者からの相談や要求等については各保育士も丁寧に対応し常に全職員で情報を共有しています。</p> <p>○各家庭の状況を把握し必要な場合は専門機関につなげるなどの支援をしています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○送迎時に保護者の様子の変化に気づけるよう心掛けたり、着脱やおむつ交換・身体測定時等に気を配るなどして、日頃から保護者との関わり、子どもの心身の状態に配慮をしています。</p> <p>○園長を窓口として対応していますが、対応マニュアルに基づく研修の実施や虐待等権利侵害に関する基本知識などを職員全体で共有してより組織的な取り組みができることが望まれます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>□ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○保育実践の振り返りが定期的に行われています。評価や反省を生かしながら計画の修正が適切に行われ子どもの育ちに沿って保育が進められています。</p> <p>○保育計画の評価・反省に加えて自己評価の実施方法を定めることで定期的な自己評価が行われ、更なる園全体の保育の資質向上につながることを期待されます。</p>